

13	豊橋	牟呂中学校	ア ダ チ マ サ フ ミ ----- 名前 安 立 将 文
分科会番号	19	分科会名	読書 ・ 学校図書館

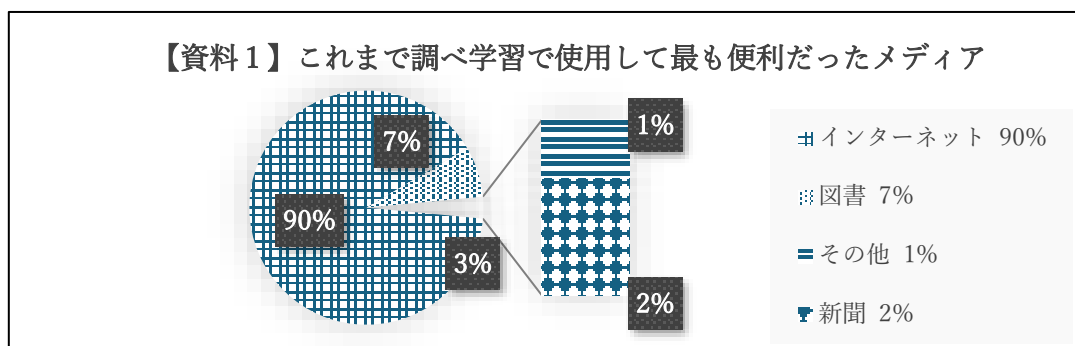
意欲的に図書資料を活用し、学びに生かそうとする生徒の育成

～ さまざまな情報媒体を活用した、1年国語科の授業実践をととして ～

1 はじめに

小中学校ではすべての子どもにタブレット端末が支給され、全児童生徒が何らかの電子端末を所持、または自宅にある状態となつて久しい。しかし、学習に生かすことが難しく、「調べ学習」という枠組みの中で、教師側が用意した必然性の元で利用するにとどまっている状態である。また、調べ方もタブレット端末で、必要な情報のみを集めるだけの作業となっている傾向にある。実際に昨年度、調べ学習を行った総合的な学習の時間や英語科、社会科もすべてタブレットのみの使用となっていた。

授業内で、調べ学習に関するアンケートをとった。項目をこれまでの調べ学習で使用して最も便利だった(調べ学習に適していた)情報媒体についてとしたところ、以下のとおりとなった。【資料1】



調べ学習で使うことができる情報媒体として、図書とインターネットを挙げる生徒が多かったが、調べ学習に適している情報媒体としては、9割の生徒がインターネットと回答した。

そこで、調べる中で多くのことに気づき、興味をもち、好奇心をもって学ぶ姿勢を育てたいと考えた。同時にインターネットのみに頼るのではなく、目的に応じて情報媒体を選んで活用できるようにする必要性を感じたため本主題を設定した。図書資料を開く中で、多くの情報にふれ、自分が必要とする情報を得るために、どのような情報媒体で、どのように資料を探せばよいのかを考えるなど、活動の幅が広がることを期待したい。またそうすることで、今後、調べ学習を行う際には、図書資料やインターネットなどさまざまな資料から情報を集めることができる生徒の育成を目指し、本研究に臨んだ。

2 目指す生徒像

○自分の発表をより魅力的なものにするために、適した資料を選択し、有効に活用することができる生徒。

3 研究の構想

(1) 研究の仮説

① 仮説1

調べ学習において、互いに調べ方や使用した図書を交流すれば、図書資料も有効であることに気づき、積極的に利用することができるだろう。

② 仮説2

これまで学んだ単元の振り返りにおいて、興味をもったことを自由に調べれば、情報媒体や得た情報の選び方について考え、有効に活用することができるだろう。

(2) 仮説に対する手だて

① 仮説1に対する手だて

- ア 調べ学習で使用する図書、新聞、雑誌、インターネットそれぞれの情報媒体の長所と短所を確認する時間を設ける。
- イ 図書の選び方を考える時間や調べ方、使用した情報媒体について生徒どうして紹介しあう時間を設ける。

② 仮説2に対する手だて

- ア 学校図書館司書と連携し、図書の分類や図書室での配架について紹介する時間を設けたり、図書室に無線 LAN ルーターを設置したりして、インターネットと図書資料を自由に使うことができる環境を整える。
- イ 自分の資料について、使用した情報媒体が適切だったか、友達の資料から学んだことについて意見を交換する時間を設ける。

(3) 生徒の実態

インターネットと図書の便利な点・不便な点について意見を交換したところ、以下のような結果となった。【資料2】

【資料2】インターネット（タブレット）と図書資料の比較

インターネット(タブレット)		図書資料	
よかった点(便利な点)	不便な点	よかった点(便利な点)	不便な点
・ほしい情報にはやくとりつける ・コピーして引用できる ・教室で検索や資料作成ができる ・家に持って帰って使用できる	・画面が小さく、見づらい →電子資料が作りづらい ・家でオンラインにならないことがある ・授業中に接続が不安定になる ・画面を見ている時間が長くなってしまう	・グループのみんなで見るのができた ・先生が関係する本だけを集めてくれたので調べやすかった	・使える本を探すことに時間がかかる ・重い・持ち帰りづらい ・使いたい本を他の人が使っていて困ることがある ・内容が難しく感じる ・どんな本を探せばよいのかわからない

小学生の頃には図書を利用した調べ学習を行っていたが、タブレット端末が支給されて以降、前述のとおり中学校での調べ学習では100%に近い割合でインターネットを利用していると考えられる。だが、しかし【資料2】のように、多くの生徒が検索に図書を使うことや、図書の便利な点、有効性については理解をしているが、タブレットの手軽さゆえに、行動として表れることは無いということがわかった。図書が有効であると回答した一部の生徒に、本を使って調べ学習を行いたいかと問い返したところ、タブレットで十分であると回答する生徒が多かった。

家庭学習において、何かを調べるという生徒は6割ほどおり、そのほとんどがスマートフォンや自宅のPCを使用していた。YouTube等で、学習内容を解説している動画を視聴する生徒もいた。図書の一部として辞書を使用する生徒もわずかにいたが、自宅に辞書があるかどうかという問いには、全体の8割程度の生徒が「ない」、または「わからない」と回答した。今回の授業をととして、図書を使って調べることで視野が広がる実感をもたせたいと考えた。

抽出生徒A(以下、生徒A)は調べ学習に前向きであり、調べ学習で使うことができる情報媒体として図書を挙げていた。しかし、今後の調べ学習で図書を使いたいかという質問には、「タブレットがよい」と回答していた。理由として、「図書資料が有効であることは理解しているが、授業の調べ学習はインターネット検索で十分だ」と述べた。そこで、実際に図書館を利用し、自分の求める情報に適した情報媒体として図書を選択し、有効な手段として活用する姿を期待したい。

(4) 単元構想図(全7時間) 1年国語「1年間の学びを振り返ろう」

一年間の学習の中で印象に残った単元は何か①

- ・物語がおもしろかったよ。・説明文の読み方がわかったよ。・古文では初めて知ったことが多かったね。
- ・物語は人物の気持ちを読み取るのが難しかったよ。説明文の内容はあまり身近に感じられなかったよ。
- ・古文は覚えることが多くて大変だったよ。・一年間の学習を振り返ってみたいな。

観点を決めて、一年間の中で学んだことを振り返りたい①

- ・物語ではたくさんの情景描写を学んだね。・説明文では文章の構造を学んだよ。
- ・古文では歴史的仮名遣いや当時の生活についても学んだね。・自分が学んだことを知らせたいな。

手だて①ーア
※調べ学習で使用する図書、新聞、雑誌、インターネットそれぞれの情報媒体の長所と短所を確認する時間を設ける。

自分の振り返りを友達に発表したい②

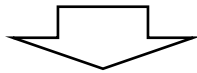
- ・今まで興味がなかった人にも興味をもってもらえるような発表にしたいね。
- ・相手に理解してもらいやすい工夫がしたいね。
- ・それぞれの情報媒体に長所と短所があるね。
- ・学んだことだけでいいのかな。・興味をひく内容も新たに追加したいね。
- ・更に詳しく調べてみたい。・図書室にも行きたいな。

手だて②ーア

※学校図書館司書と連携し、図書の分類を紹介する時間を設けて、改めて図書資料を探しやすい環境と、図書室に無線 LAN ルーターを設置し、インターネットと図書資料を自由に使うことができる環境を整える。

関連する内容を調べて発展的な内容にしたい③④⑤

- ・シジュウカラの生態に似た動物を調べてみたいな。
- ・比喩を効果的に使っている物語を調べてみたい。
- ・竹取物語や、その他の古文についても調べてみたいね。



- ・図書とインターネットを両方使えると比較できるね。
- ・初めて中学校の図書室を調べ学習で利用したね。・本を探すのも楽しいね。
- ・普段は、見る事がなかった本を見つけることができたね。
- ・必要な本以外にも読んでみたい本があったね。
- ・友達の調べ方を教えてもらったから取り入れたいな。

手だて①ーイ

※図書の選び方を考える時間や調べ方、使用した情報媒体について生徒どうしで紹介しあう時間を設ける。

手だて②ーイ

※自分の資料について、使用した情報媒体が適切だったか、友達の資料から学んだことについて意見を交換する時間を設ける。

友達に発表して、意見交換したい⑥⑦

- ・自分が調べたことを発表できたよ。・調べるって楽しいね。
- ・友達の発表を聞いて、資料の使い方が参考になったよ。
- ・今回調べたことを、これから生かしていきたいな。
- ・これから図書もインターネットも上手に使っていきたいな。

4 研究の実践と考察

(1)手だて①ーア 調べ学習で使用する図書、新聞、雑誌、インターネットそれぞれの情報媒体の長所と短所を確認する時間を設ける。

第1時で振り返った内容を発表するということに決まり、実際にどのような形で発表資料を作っていくかについて話し合う時間を設けた。そこでは相手に興味をもってもらえるような内容にするために「発表方法を工夫する」、「新しい発見があるものがよい」といった意見が出た。また、「発表方法を工夫するというのは、具体的にどんなことを行うのか」と問い返すと、紙ではなくパワーポイントを使うなど媒体に関する意見や、情報量を多くしないようにするといった内容に関する意見が挙がった。

特に内容に関する意見の中には「教科書の内容だけではおもしろくない」、「すでに知っている内容だけでは興味をもてないのではないか」という意見がわずかながら出たため、この意見を取り上げ、クラス全体で考えることにした。興味をもってもらうために新しい情報があった方がよいと考える生徒は9割以上となり、発表資料には教材をとおして学んだことに加えて、新しく知ってもらいたいことや、自分が調べて興味をもった内容を盛り込むこととした。新しい情報をどのように得るのかについて、まずインターネット以外で、身の回りに使用可能な情報媒体として何があるのかについて、なげかけた。

生徒からはインターネット、図書に加えて、ラジオ、テレビなどが出た。また各クラスの図書委員の生徒が、学校には新聞や雑誌があるということを伝えると、活用できるのではないかという意見が多く出た。さらに、テレビ番組であっても見逃し配信や、NHKforSchool 等の

いつでも見ることができるものがあるという意見を述べる生徒もいた。

そこで、改めて各情報媒体の長所と短所の確認を行った。結果として実際に調べ学習で使用する媒体として適しているものについては、ほとんどの生徒がインターネットと答えた。しかし、一方で「たまには図書室に行きたい」、「雑誌や新聞も使えるのではないか」、「インターネットだと、結局似たような内容になる」といった意見も散見された。発表資料を作るのであれば、インターネットのみでもよいと答えていた生徒 A も「図書室でインターネットと両方使えるといちばんよい」という意見を述べ、クラス全体として一度、図書室に行って調べたいことに関する資料があるか探してみるという結論に至った。

各情報媒体の長所と短所を確認する時間を設けたことで、図書室にも目を向け、図書資料に興味をもつ生徒が多くなったことから調べ学習への意欲が高まっていると考えられる。よって、手だて①ーアは、有効であった。

(2)手だて②ーア 学校図書館司書と連携し、図書の分類や図書室での配架について紹介する時間を設けたり、図書室に無線 LAN ルーターを設置したりして、インターネットと図書資料を自由に使うことができる環境を整える。

図書室で資料製作の活動を始めたが、この活動は図書に関するリテラシーに大きな差があることがはっきりした部分でもあった。普段図書室を利用している生徒は、自分が必要とする図書がどの辺りにあるのか理解しており、すぐに調べ学習に取りかかることができた。一方で、どこにどのような図書があるのか、どのような図書を自分の資料に活用できるのか、といった調べ学習のスタートラインに立っていない生徒がどのクラスにも多くいることが分かった。そこで、年度当初に学校図書館司書が行ったオリエンテーションの資料をもう一度確認する時間を設けた。ふだんから図書室を利用している生徒は2割程度であったため、9分類について改めて学びなおすことで、自分が使いたい図書資料をスムーズに探すことができた。

また、本校では普通教室は無線 LAN を自由に使用できるが、特別教室には届かないため、移動式の無線 LAN ルーターを図書室に常時設置し、常にタブレットでのインターネット検索が可能な環境を整えた。生徒はタブレットを図書室までもっていき、インターネットと図書資料の両方を常に使えるような状態で調べ学習を進めた。

活動を始めると、自分と同じ単元を選んだクラスメイトと話しながら一斉に図書資料を探し始める姿が見られた。【資料3】 適した図書を探し出し、インターネットと両方を自由に使いながら効率的に製作を進める生徒が、どのクラスでも多く見られた。【資料4】 図書がスムーズに探せるようになったことと、インターネット環境を整えたことで図書とインターネットの情報を比較しながら活動することができた。よって、手だて②ーアは有効であった。

一方で、配架については理解したが、自分の作りたい資料にはどのような本が適しているのか絞り込むことはできても、最終的にどのように図書を自分の資料に活用したらよいのかまでは考えることが難しい生徒もいた。

この様子から、図書資料の活用に関するリテラシーが極めて大きいことがわかり、資料製作が進んでいる生徒による、選択した図書の紹介や、自分が選んだテーマに対してどのように図書を選択したのかを紹介する時間を、予定よりも早く設定する必要があると考えた。



【資料3】 クラスメイトと図書資料を選ぶ様子



【資料4】 図書資料を活用する生徒の様子

(3)手だて①ーイ 図書の選び方を考える時間や調べ方、使用した情報媒体について生徒どうしで紹介しあう時間を設ける。

本来であれば、第4時に設定していた活動に区切りをつけ、説明的文章・文学的文章・言語に関わるそれぞれのジャンルで、すでに使用する図書を決定し、発表に向けて方向性が決まっている生徒に、自分の図書の選び方などを紹介する時間を設けた。また、一度、学校図書館司書の方に行っていたいただいたガイダンスの資料をもとに、分類法を確認した。以後はその紹介や、分類の確認を受けて、前述の困っていた生徒も各々友達に聞きながら活動を進めることができた。【資料5】

生徒 A は、本教材で題材となっていたシジュウカラ以外にも「言葉」を使い、コミュニケーションを行う動物を調べた。【資料6】



【資料5】 クラスメイトと相談する様子

動物に関する図書は多く取り揃えられているため、同じ題材を選んだ生徒どうしで、より分かりやすい図書を紹介したり、交換しあったりする姿が見られた。紹介するための資料はタブレットのカメラで撮影し、使用した。内容は図書のもの、写真はインターネットのもの、と資料を使い分ける生徒もいた。その際には著作権について解説し、授業内でのみ使用してよいことについて学んだ。

故事成語について振り返った生徒は、国語便覧に掲載されているものの中から、身近なものを選び、図書室で見つけた図書のイラストを使用しながら資料を作成した。【資料7】

図書資料を探すことに苦戦した生徒も、何とか資料を完成させることができた。完成した資料は、テーマが同じでも使用する図書が違ったり、同じ図書を使用しても、採用した情報が違ったりするなど多種多様なものになった。この資料を互いに発表することで、自分では思いつかないような図書の選び方や、活用の仕方に気づくことができ、今後の活動で自分に合った資料を探す力を伸ばしていこうとする生徒が多くなったことから、図書資料の有効性を実感できたといえる。よって、手だて①―イは有効であった。

言語をもつ動物はほかにも存在する！

ハイイロオオカミ
「クワンタン」、「キョーキョー」
「フーン」、「バルルッ」など
様々な鳴き声がある。これらは、群
れの平和を促すのに役立っている。
遠吠えには、友好的なメッセージとい
う意味と、威嚇のメッセージとい
う二つの意味がある。



【資料6】 生徒Aの作成した資料

漁夫の利

意味・・・たがいに争っているのに
つけこんで、第三者が苦勞
しないで利益をさうること

故事
しぎと貝が争っているところへ漁師が
通りかかり、両方を捕まえてしまった
ことから

『戦国策』より



【資料7】 故事成語の資料を作成した資料

(4)手だて②―イ 自分の資料について、使用した情報媒体が適切だったか、友達の資料から学んだことについて意見を交換する時間を設ける。

前時までに作成したパワーポイントをグループで互いに発表する活動を行った。【資料8】

自分が調べた内容については、使用した資料をどのように集めたのか、また図書資料であれば、実際にその図書をグループの友達に見せながら発表するという形式をとった。どのクラスでもそれぞれが調べた内容について質問したり、感想を伝えたりするなど、クラスメイトの資料に興味を示す様子が見られた。

全員の発表が終わった後、クラス全体で振り返り活動を行った。資料の集め方について多くの生徒が満足感を示していた。資料も、おおむね自分が作りたいものになっていた様子である。これに対して、図書資料を選択した生徒が、本がもっとたくさんあると選びやすかったという意見がどのクラスでも出てきた。そのなかで、「大きい図書館の本を学校でも使

えるといいのに」といった発言もあったため、豊橋市の公立図書館の図書も学校で借りることができると伝えた。どのクラスでもぜひ使ってみたいという意見が多く、自分の資料や友達の資料について意見交換することで図書の有効性に気づくことができ、今後の図書資料活用について意欲が高まったと考える。よって、手だて②―イは有効であった。



【資料8】 グループ内で発表しあう様子

5 成果と課題

(1) 成果について

学校図書館や、図書資料を使っ
ての活動になじみがない生徒の「インターネットじゃなく

図書室にある本でインターネットじゃなくても、こんなにも調べたりできるんだなって思いました。インターネットで調べればよかったし、でてきたらリットとときに、本をつかうといいなって思ったのでこれから積極的に活用していきたいです。

【資料9】 生徒の振り返り①

ても、こんなにも調べたりすることができるんだなって思いました。」という記述【資料9】から、実

際に図書資料に触れることで、よりよい調べ学習とすることができたことがわかった。当初、図書資料を使うことを面倒と感じていた生徒や、期待感をもっていなかった生徒も、実際に図書室へ足を運び、図書を手に取ることで興味を示す姿が多く見られた。よって、仮説1「調べ学習において、互いに調べ方や、使用した図書を交流すれば、図書資料も有効であることに気づき、積極的に利用することができるだろう」は、妥当だったと言える。

また、発表資料を作る活動では、クラスメイトの行う図書の活用方法の紹介を真剣に聞き、その後も相談しながら活動を進める姿が見

られた。「最初、何を書けばいいかはわからなかったけど、友達が教えてくれたので、説明が全部完成しました。」【資料10】と

私が、ちょっと立ち止まっていた説明をしたら、グループの人がどうなすいてちゃんと聞いてくれて。プレゼンは最初、何を書けばいいかはわからなかったけど友達が教えてくれたので説明が全部完成しました。

【資料10】 生徒の振り返り②

あるように、アドバイスを受けたことで、資料を完成させることができたと感じた生徒もいた。

インターネットを使った調べ方も本を使った調べ方もどちらも良いところがあったので調べる内容によって使い分けられるようにしたいです。

【資料11】 生徒の振り返り③

また、「インターネットを使った調べ方も本を使った調べ方も

どちらも良いところがあったので調べる内容によって使い分けられるようにしたいです。」【資

料11】という記述からは、インターネットと図書資料を両方うまく使うことができると更に、よりよい調べ学習を行うことができると考えた生徒がいたことがわかる。

生徒Aは、図書を使って調べることに時間がかかってしまったようだが、「本を使って生物のことだけでなく、さまざまなことを調べてみたい。」【資料12】と記述した。本実践で熱心に図書を探す

言語を持つ動物は何かいるのかわからなかった。インターネットより本の方が詳しくまとめてあってよかった。どの本なら自分が必要なのかわからず、時間がかかってしまった。本を使って、生物のことだけでなく、さまざまなことを調べてみたい。

【資料12】 生徒Aの振り返り

姿が見られ、今後も図書を使って、調べ学習を行いたいと考えていることがわかった。

よって、仮説2「これまで学んだ単元の振り返りにおいて、興味をもったことを自由に調べれば、情報媒体や得た情報の選び方について考え、有効に活用することができるだろう」は、妥当だったと言える。

(2) 課題について

今回の授業で、予想以上に「本を探す」、「本を読む」能力が生徒ごとに大きく開いていることがわかった。机間指導をするなかで、自分が使うページを開いているにも関わらず、どこを資料に引用したらよいかわからなかったり、小中学生向けの図鑑などを見ても内容を理解できず、活動が止まってしまったりする生徒が予想より多かった。

また生徒Aの振り返り【資料12】にもあるように、図書の中から自分の資料に活用できる部分を探し出すことに時間がかかってしまったことも反省点である。普段の調べ学習に、今回のように7時間を割くことは難しいため、授業の進め方や図書資料をどのように扱うかについて再考する必要があると感じた。

今回の課題に対して、定期的に図書室を利用したり、簡単な調べ学習の時間を取り入れたりすることで、図書への興味を継続しつつ、図書資料の活用に慣れさせていきたい。また、学校図書館以外の図書を使いたいと考えるようになった生徒も増えたため、更に図書資料活用する幅を広げていきたい。